



第16期平和フェローオリエンテーション 2017年9月2日開催

ロータリー平和 フェローシップ

ニュースレター第2号
2017年12月13日

ホストエリア連絡協議会

ロータリー平和フェローニュースレター

第2号発刊に際して

ロータリー平和センター ホストエリアコーディネーター
補佐 (ニュースレター編集委員長) 宮崎陽市郎

ニュースレター第2号送付とともに、「ロータリー平和センター」リーフレットのPDFを添付いたします。山崎アドバイザーがQ&A形式で作成したものです。どうか各地区でロータリー平和センタープログラムの啓蒙のために有効利用していただければ幸いです。

ICUで学ぶ平和フェローの現況

現在第15期平和フェロー9人、第16期平和フェロー9人が国際基督教大学にて平和研究に励んでおります。

15期平和フェローは、それぞれインターンシップ(実地研修)にて実践的なスキルを身につけ、再び日本に戻ってまいりました。

第16期生は9月よりそれぞれの研究テーマに沿って、毎日多くの課題をこなしながら忙しい日々を送っております。

選考会報告

本年も第17期平和フェローの選考会が行われました。近年本部での平和フェローシッププログラムのマーケティング及びプロモーションに力を入れており、その結果全体の応募者の数が着実に増えているということです。そのため今回より選考方法が大幅に変更となりました。各応募者の書類は、まずロータリアン側で第一希望者を対象に上位40名を選出し、その後40名を大学側で審査するフローに変更されました。

ICUロータリー平和センター第17期生最終候補者は、男性4名、女性6名。20歳から59歳、平均年齢は36.1歳。国籍は、オーストラリア(2名)、コロンビア(2名)、アメリカ(2名)、ガンビア、ブラジル、南スーダン、イタリア。

日本人応募者のうち、最終候補者は3名でBradfordに1名(2750地区推薦) Queenslandに1名(2770地区推薦) 1名補欠でUppsala(2760地区推薦)

Future Planning Committee Meeting 今後のプログラムの方向性について検討する委員会が開催されました。6つの重点分野に関連して平和フェローシップを展開したいということです。特に平和学と開発学領域との結びつきを強くしたいと話し合われた。又、第3者機関と共同で、ワークショップやオンラインセミナーを開催する案も提案されました。

応募書類への新しい設問の追加

次年度より下記設問が加えられることとなった。「平和と紛争解決におけるあなたの研究テーマについて学問的に述べなさい。その際、各センターのウェブサイトを参考にすること」

地区の Endorsement のあり方について

各応募者は、地区から承認を受けないと正式な応募書類となり得ないのだが、地域的な問題もあり、応募書類に問題ないのに地区からの承認を得られないという問題が深刻になりつつある。地区で1名しか推薦できなという誤解もあり、本部では地区と応募者のマッチングに時間がかかっている。



ホストエリア コーディネーター
RID2750 東京西 RC
辰野克彦



ホストエリア アドバイザー
RID2790 市川 RC
山崎 敬生



ホストエリア
コーディネーター補佐
RID2750 東京三鷹 RC
宮崎陽市郎



ホストエリア
コーディネーター補佐
RID2590 横浜都筑 RC
鬼嶋雄三

ホストエリア

第2580地区	第2590地区
第2750地区	第2770地区
第2780地区	第2790地区



出願数の推移：全体

別添

出願数の推移：全体

条件をすべてクリアした応募書類数 (Qualified application※)

PROGRAM	2016	2017	2018
Masters	210	293	267
Certificate	116	129	141
Total	326	422	408

2017年比 3%減少2016
年比29%増加

※提出後、地区承認を得て必要事項に漏れが無い応募書類の数

出願数の内訳：応募者の職種

Areas of Employment	Count	%
NGO	124	30
Education	74	18
Government	57	14
Peace Building	46	11
Other	36	9
Communications	15	4
Multilateral Institution	15	4
Law	13	3
Health Care	10	2
Business / Trade	9	2
Military	9	2

出願数の推移：各センターの第一希望者数

1 st PREF	2016	2017	2018	% Change
Bradford	61	98	82	-16
Duke-UNC	37	44	49	11.4
ICU	17	28	22	-21.4
Uppsala	42	61	62	1.6
UQ	53	60	50	-16.7
Chula	116	129	141	10

※2017年までは全てのセンターが、第1希望と第2希望を審査していた。

出願数の内訳：国籍別

Region	# of Countries Per Region	Count	%
③ Africa	23	71	17
① Asia	19	103	25
Australia	1	18	4
Europe	17	39	10
③ Latin America & Caribbean	14	69	17
MENA	11	25	6
② North America	2	83	20
Total	87	408	100

2018年出願数の内訳：各センターの第一希望者数

1 ST PREF	提出数 Submitted	承認数 Endorsed	% of Submitted	最終数※ Qualified	% of Submitted	% of Endorsed
Duke/UNC	156	59	38%	49	31%	83%
Bradford	264	110	42%	83	31%	75%
ICU	78	34	44%	22	28%	65%
Uppsala	142	78	55%	62	44%	79%
UQ	191	74	39%	51	27%	69%
Chula	523	197	38%	141	27%	72%
Total	1354	552	41%	408	30%	74%

※Qualified = 最終提出数 = 条件をすべてクリアした書類数

出願数の内訳：国籍別の推移

Citizenship 2016		Citizenship 2017		Citizenship 2018	
USA	77 23.8%	USA	71 16.8%	USA	73 17.9%
Brazil	20 6.2%	India	28 6.6%	India	28 6.9%
India	19 5.9%	Brazil	25 5.9%	Brazil	20 4.9%
Australia	13 4.0%	Nigeria	18 4.3%	Pakistan	20 4.9%
Kenya	12 3.7%	Colombia	16 3.8%	Australia	18 4.4%
Canada	12 3.7%	Pakistan	12 2.8%	Colombia	16 3.9%
Afghanistan	8 2.5%	Kenya	11 2.6%	Kenya	12 2.9%
Argentina	8 2.5%	Canada	10 2.4%	Nigeria	11 2.7%
Mexico	7 2.2%	Mexico	9 2.1%	Canada	10 2.5%
Sri Lanka	7 2.2%	Italy	8 1.9%	Cambodia	9 2.2%

出願数の内訳の推移

●男女別

GENDER	2016	2017	2018
Female	189 (58.5%)	240 (57%)	234 (57%)
Male	156 (39%)	183 (43%)	174 (43%)

●過去にも応募したことがあるかどうか

Past App.	2016	2017	2018
Yes	47 (14.6%)	63 (14.9%)	78 (19%)
No	270 (83.6%)	355 (84.1%)	330 (81%)

地区ごとの提出数

Districts	# Submitted App		
9212	78	9140	21
3272	47	3220	20
9125	45	9101	20
1010	37	3271	19
9210	35	53	19
2452	33	1020	14
9211	32	9102	14
3350	30	3281	14
2451	29	3292	13
4281	27	4530	12
52	27	4250	11
2430	25	4400	11
9110	23	1040	10
9150	23	9350	10
3410	23	3131	10

経済平和研究所との戦略的パートナーシップを締結

「平和」とは何を意味するのか。平和であることを測定するのは可能か。平和を助長するものは何か、そしてロータリーは平和のために何ができか。これらの問いに答えるため、ロータリーはこの度、平和と紛争解決の研究でリーダー的な存在である経済平和研究所（Institute for Economics and Peace）との戦略的パートナーシップを締結することとなりました。同研究所は、平和な社会を作り、維持するために必要な行動、組織、構成を特定・測定する「positive peace（積極的な平和）」という概念の枠組みを構築した先駆者です。これには、強固なビジネス環境、適切に機能する政府、情報の自由なやり取りなどが含まれます。

このパートナーシップを通じて、ロータリーは同研究所と以下を行うことを予定しています。

- オンラインの学習プラットフォームの構築：ウェビナーやインタラクティブツールを導入し、ロータリー会員やロータリー平和フェローが専門知識を深める一助とします。新しい平和構築法を導入する方法や、紛争の根底にある課題に対処するために地域社会の人材を導入する方法などを学ぶことができます。
- 積極的な平和のワークショップ：世界中のロータリークラブが、グローバル補助金を利用して積極的な平和のフレームワークに関する研修を提供するためのワークショップを実施します。実践的で意義のある平和と

紛争解決プロジェクトの各地での実施を促すことを目的としています。

このパートナーシップは、ロータリー会員、平和フェロー、その他の人たちが、より充実した平和プロジェクトを立案・実施し、幅広く平和を推進することを可能とします。これは、世界中の地域社会で人道的な課題に取り組むというロータリーの目的にとって非常に重要です。

7-Aug-2017

平和の「概念」を「現実」に



6名の「平和の推進者」が表彰された国連でのロータリーデー（11月11日）

国連でのロータリーデー：平和を現実によく

執筆：Geoff Johnson 写真：Monika Lozinska

第1次世界大戦終結99周年を記念し、スイス・ジュネーブの国連事務局で、「ロータリーデー」が開催され、1,200以上が集まりました。11月11日（土）、87カ国の代表者が元国際連盟のパレ・デ・ナシオンに集結し、イアン H.S. ライズリーRI会長が以下のテーマを提唱しました。「平和：変化をもたらす（Peace: Making a Difference）」。

国際理解、親善、そして平和は、兼ねてからのロータリーの第一目標」と話すライズリー氏。「ロータリーの奉仕活動はすべて平和構築につながることで、そして平和構築のために奉仕を行うことは、私たち皆がすでに認識していることです」今回、これまでの13年間で初めて、「ロータリーデー」の行事がニューヨーク以外で開催されることとなりました。ジュネーブ平和週間の最後の日を「ロータリーデー」となり、ロータリーのジョン・ヒューゴ事務総長は、「ロータリーと国連の長年にわたる協力関係と、平和と国際理解の追求」を言明しました。「ロータリー会員は、奉仕を通じて、平和を概念から現実にできる」と、エド・フタ氏（国連に対するロータリー代表）は述べました。「平和は概念として説くものではなく、実現すべきものです」イベントのハイライトとして、ジョン・ヒューゴ事務総長が、2017年の「世界を変える行動人：平和の推進者」（People of Action: Champion of Peace）を発表し、「組織の活動の範囲・影響力」を称え、「より平和的な、より活力のある社会になるための道しるべ」を記したことを称えました。

選ばれた6人は、以下の通りです。

アレハンドロ・レイエス・ロザノさん（コロンビア、Bogotá Capital ロータリークラブ会員）：ロータリーのグローバル補助金を活用して、中南米6カ国の27名の女性に対し平和構築、紛争解決、仲裁スキルの研修を実施。また、コロンビアのファン・マヌエル・サントス大統領の任命により、コロンビア革命軍との50年にわたる紛争の終結に

に向けた交渉と条件設定を行うチームの一員となっている。

ジーン・ベストさん（スコットランド、Kirkcudbright ロータリークラブ会員）：争いを解決するスキルを10代の子どもに教え、子どもたちが学校や地元地域で平和関連の奉仕活動を立ち上げることを目的とした平和プロジェクトを実施。「自分の心に平和がなければ、世界平和を目指すことはできません」

サフィナ・ラーマンさん（バングラデシュ、Dhaka Mahanagar ロータリークラブ会員）：バングラデシュの職場における女性の権利推進に尽力。衣類工場経営者として同国で初めて、女性従業員のための健康保険と産休制度を導入。「教育は、平和に向けた変化の原動力となります」

アン・フリッシュさん（米国、White Bear Lake ロータリークラブ会員）：非武装の市民が紛争地域の人びとを守れると信じ、バンコクおよびタイ南部で平和プロセスの研究プログラムを設立。「持続可能な平和とは、市民による積極的な参加を必要とします」

キラン・シラーさん（元ロータリー平和フェロー）：米国テネシー州にある International Storytelling Center（国際ストーリーテリングセンター）の所長。同センターは、平和構築のための手段としてストーリーテリングを用いている。「話を伝えるということは本当に重要だと思います」



テイラー・キャス・タルボットさん（元ロータリー平和フェロー）：日本の国際基督教大学ロータリー平和センターの卒業生。毎日20トン分のむき出しの衛生廃棄物を扱うごみ収集者のために、SWaCH（ごみ収集者共同組合）と協力して、ゴミ収集者が衛生廃棄物に直接触れることなく適切に仕分けすることができるキャンペーンを開始。Live Debris プロジェクトでは、世界レベルで廃棄物の問題に取り組んでいる。

その後、受賞された6人は、持続可能性と平和についてのワークショップや、ロータリー会員などのヤングリーダーのための特別セッションで、平和構築における教育・科学の重要性にスポットライトを当てたワークショップに参加しました。

世界保健機関（WHO）のポリオ撲滅ディレクターであるマイケル・ザフラン氏は、ポリオ撲滅活動の最新情報を発表。ロータリー、WHO、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、その他

パートナー団体による活動により、ポリオ発症数は99%減少し、目覚ましい進歩を遂げています。「ポリオ撲滅を実現するこの国際関係があれば、世界平和を達成できるでしょう」

在ジュネーブ国際機関の日本政府代表部大使代表代理、および世界ポリオ撲滅推進活動のポリオパートナーグループ議長である志野光子（しの みつこ）氏も同席しました。

ライズリー会長は基調講演で、次のように述べました。「ポリオ撲滅活動で私たちが学んだことは、多くの人々が一致団結して、問題を理解し、そのプロセスを理解し、リソースを結集し、影響力を強くし、計画を立て、目標を設定すれば、山をも動かすことができること。今こそ、行動を起こし、協力すべきときです」



今後の主な予定

- ✚ 2018年4月18日(水)
第17期平和フェローカウンセラーオリエンテーション 於：学士会館
- ✚ 2018年6月2日(土)
ホストエリアセミナー／第15期平和フェロー修了を祝う会 於：国際基督教大学
- ✚ 2018年6月2日(土)
第16回ロータリー平和センター年次セミナー 於：国際基督教大学